

事業評価シート(R3年度事業評価用)

番号	1940030	001
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	配水管布設工事				
担当部名	上下水道事業部		担当課名	上水道事業課	
実施方法	直営	補助等の種類	-	実施主体	岐阜市
実施期間	昭和3 年度～	年度	根拠法令・関連計画	水道法	

【2.事業概要】

事業の目的		上水道給水区域内における給水要望者に安全でおいしい水を供給する。			
事業の内容		上水道給水区域内における給水要望に対応するため配水管の布設を行う。			
事業の対象	何を	安全でおいしい水			
	誰に	上水道給水区域内の給水要望者			
	どのくらい	給水要望者に水道水を供給			
令和3年度 (実施内容)		給水区域内の給水要望対応として L=3,823m の配水管布設を実施			

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和元年度決算額		令和2年度決算額		令和3年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	56,746	1,669	51,805	1,594	46,092	1,427
パートタイム会計年度任用職員 (旧嘱託)	0		0		0	
パートタイム会計年度任用職員 (臨時雇用員)	0		0		0	
計(A)	56,746	1,669	51,805	1,594	46,092	1,427

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
		277,274	231,854	269,583
直接事業費の 主な内訳		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
項目	配水管布設	277,274	231,854	269,583
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		277,274	231,854	269,583

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
		334,020	283,659	315,675

【4.収入】

収入内訳		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
国庫支出金				
県支出金				
市債		155,800	151,600	104,500
使用料・手数料				
その他		90,469	61,129	74,121
計(F)		246,269	212,729	178,621

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
		87,751	70,930	137,054

【6.コストバランス】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業受益者	水道使用者(給水人口)	水道使用者(給水人口)	水道使用者(給水人口)
受益者数	348,961	347,509	344,571
受益者負担額(千円)	90,469	61,129	74,121
受益者負担率(%)	27.1%	21.6%	23.5%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	251	204	398

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)）

活動指標名	布設延長		単位	m
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標値	5,510	5,100	5,100	
実績値	5,353	3,933	3,823	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	—		単位	—
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標値	—	—	—	
実績値	—	—	—	
達成状況	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	上水道給水区域内の給水要望者は、安心・安全な水道水の使用を希望しており、水道事業者は、利用者に対し水道水を供給する義務がある。 水道事業は、市民の福祉、公共の利益に密接な関係を有し公共の利益を保護するため厚生労働大臣の認可が必要とされることから、原則、市が経営する事業である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	給水要望者から水道水の供給に必要な工事負担金を徴収しており、配水管を布設することで水道の普及が図られ料金収入の増加につながることから、費用対効果は担保されている。 水道事業は、市民の福祉、公共の利益に密接な関係を有し公共の利益を保護するため厚生労働大臣の認可が必要とされることから、原則、市が経営する事業である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	水道の普及促進が公衆衛生の向上と生活環境の改善とに寄与されることから、配水管を布設し安全でおいしい水を供給することにより、給水要望者に対し快適な生活環境を創出することができる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	水道事業は、原則、受益者が使用量に応じて負担する事業であることから公平性は高い。
〔総合評価〕 (現状維持・改善(統合・縮小含む。）・廃止)	現状維持	水道は、市民生活において重要インフラであり、必要性・公平性ともに高い事業である。人口減少による需要の減少や立地適正化計画などを踏まえ、工事負担金制度の見直し等を行い効率的な整備を進めていく。

事業評価シート(R3年度事業評価用)

番号	1940030	002
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	配水管布設替工事				
担当部名	上下水道事業部		担当課名	上水道事業課	
実施方法	直営	補助等の種類	-	実施主体	岐阜市
実施期間	昭和63 年度～	年度	根拠法令・関連計画	水道法	

【2.事業概要】

事業の目的		老朽化した管路の布設替えを行い耐震化を図ることで、地震災害時においても安定した水道水の供給を可能とし、安全で安心して暮らせる都市生活を創出する。
事業の内容		経年劣化や過去の破裂・破損事故等を基に管路状況を判定するとともに、他の事業が行う工事とも連携を図りながら老朽化した配水管の更新を実施する。
事業の 対象	何を	安全でおいしい水道水
	誰に	水道利用者
	どのくらい	常時はもとより災害時においても安定した水の供給を確保する。
令和3年度 (実施内容)		老朽化した管路の予防保全及び耐震化として L=23,743m の配水管布設を実施

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和元年度決算額		令和2年度決算額		令和3年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	108,120	3,180	109,168	3,359	107,914	3,341
パートタイム会計年度任用職員 (旧嘱託)	0		0		0	
パートタイム会計年度任用職員 (臨時雇用員)	0		0		0	
計(A)	108,120	3,180	109,168	3,359	107,914	3,341

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
		1,588,351	1,784,536	2,003,977
直接事業費の 主な内訳		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
項目	配水管布設替	1,574,491	1,756,507	1,982,899
	設計業務委託	13,860	28,029	20,936
	補償金			162
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		1,588,351	1,784,536	2,003,977

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
		1,696,471	1,893,704	2,111,891

【4.収入】

収入内訳		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
国庫支出金		16,100	7,000	70,340
県支出金				
市債		971,300	1,049,200	976,600
使用料・手数料				
その他		79,531	58,501	66,453
計(F)		1,066,931	1,114,701	1,113,393

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)		令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)
		629,540	779,003	998,498

【6.コストバランス】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業受益者	水道使用者(給水人口)	水道使用者(給水人口)	水道使用者(給水人口)
受益者数	348,961	347,509	344,571
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,804	2,242	2,898

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	布設替延長		単位	m
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標値	24,220	25,090	22,970	
実績値	20,618	24,622	23,743	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	管路更新率		単位	%
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
目標値	1.00	1.00	1.00	
実績値	0.87	1.03	1.00	
達成状況	×(未達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	安全で安心して暮らせる都市生活の創出するため、常時はもとより災害時等においても安定した水道水の供給を可能とする必要がある。 水道事業は、市民の福祉、公共の利益に密接な関係を有し公共の利益を保護するため厚生労働大臣の認可が必要とされることから、原則、市が経営する事業である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	老朽化などを点数化して優先順位を定めた計画に基づき事業を実施しており、効率的に事業を実施している。 水道事業は、市民の福祉、公共の利益に密接な関係を有し公共の利益を保護するため厚生労働大臣の認可が必要とされることから、原則、市が経営する事業である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	西郷地区において、H27年度の有収率は56%であったが、計画に基づきH28～H29年度に集中的に布設替工事を実施したところH30年度末の有収率は88%に上昇した。 老朽化した管路の更新を行うことは、破裂・破損事故の減少、耐震化に繋がるほか有収率の向上にも効果が得られる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	水道事業は、原則、受益者が使用量に応じて負担する事業であることから公平性は高い。
〔総合評価〕 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)-廃止)	現状維持	安全で安心して暮らせる都市生活を創出するためには水道水の安定供給は必要不可欠であり、老朽化した管路の更新とともに耐震化を計画的に進めていくことが重要である。人口減少による需要の減少や立地適正化計画などを踏まえた計画の見直し等を行い、管路をダウンサイジングするなど再構築を進めていく。